


グルノーブル美容専門学校 自己評価報告書

【令和4年度】

 学校法人北埼玉学園
グルノーブル美容専門学校

はじめに

グルノーブル美容専門学校は、平成 25 年から学校自己評価制度の導入を図るために、自己点検制度推進部会を設立し組織的な体制を築いてきました。その後、毎月部会を行い、自己点検項目の不備な点を拾いだし改善に努めてまいりました。

実施にあたっては、多くの方々に本校の教育方針や学校運営に対するご理解とご協力をいただき、反省すべき点は謙虚に受けとめ、改善努力を惜しまないことが本校の責務であるとの認識から、法令や行政指導に従うことはもちろん、論理性と客観性を重視し、分かりやすい表現を心掛けることとしました。

今回の自己点検制度に対する学園の取り組みを、一般公開することで学園が更に取り組むべき点を内外に問う形を図り、社会的責任を果たしていきたいと考え、今年度も学校自己評価報告書を作成いたしました。

今後も学校評価を計画的に実施すると共に、更なる改善・向上に尽力してまいります所存です。

学校法人北埼玉学園 グルノーブル美容専門学校
校 長 弓削 恵子
事務職員 清水 響美

令和 4 年度 自己点検制度推進部会
美容教員 戸矢ゆかり
美容教員 林 加奈子

重点目標

1. 国家試験の合格率 100%目標
2. 広報活動の拡充
3. 中途退学防止等、生徒指導とフォローの徹底

基準 1.教育理念・教育目標

【学校理念】

あらゆる経済的事由を抱えていようとも、その可能性を閉じてはならない。

美道三大原則『美』『心』『技』

『美』私達は、常に美を追求し進化し続け社会に貢献します。

『心』私達は、常に「ありがとう」と言える素直な心を大切にします。

『技』私達は、常に高い技術と知識を身につけ成長し続けます。

【教育理念】

「美」「心」「技」の「美道三大原則」を基に、美容の理論と実践を通じ教育の向上を目指し、常に変わりゆく多様な文化の中、学生を美容界のリーダーに育てると共に、社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、生涯の学びへ導き地域社会に貢献する。

【教育目的】

学校教育法並びに美容師法に基づき、美容に関する専門的知識と技術を授け、美容に携わる有為な人材を育成することを目的とする。

【教育目標】

国家試験合格率 100%を目指すと共に一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成することを目標とする。

基準 2.教育活動・教育成果

- 国家試験合格率 100%を目指すための教員への教育及び生徒への指導の徹底。
- 学校独自の教育内容の検討及び専門技術の向上への学習内容の精査。
- 全生徒学力引き上げの授業内容検討。
- 教員の資質向上のための取り組みを図る。
- 資格取得のための支援体制を整える。

基準 3.学生の募集と受け入れ

- 学生募集活動を適正に行う。
- 体験入学の実施方法・内容を検討し、体験入学からの出願率を30%以上にする。
- 高等学校、中学校の教員に対するオンライン説明会を実施する。
- 入学選考を、公平な方法で行う。

基準 4.教職員組織

- 業務分掌を見直し、各職員の役割分担を明確にする。
- 教職員同士の連携を強化する。
- 教職員の一人一人の能力を最大限に生かす。

基準 5.教育環境

- 校舎内外の整理・整頓・清掃を心がける。
- 快適な教育環境の管理と今後の投資計画を検討する。
- 防災・消防・安全に関する具体的行動マニュアルを整備する。

基準 6.学生支援

- 就職相談等に関する体制を整える。
- 健康管理への取り組みを図る。
- 入寮生ほか、学生生活の健康管理を徹底する。
- 保護者と適切に連携する。

基準 7.管理・運営

- 教員間、職務間の連携を行うように、組織間の仕組みを構築する。
- 運営方針を定め、運営組織や意思決定機能の効率化を図る。
- 情報システム化等による業務の効率化及び改善を行う。

評価報告

評価方法：下記の評定数字 4（適切）から 1（不適切）の 4 段階で評価。

- | | |
|---|--|
| 4 | 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後更に向上させるための意欲がある。 |
| 3 | 概ね適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが期待される |
| 2 | 対応が不十分で、やや課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある |
| 1 | 全く対応しておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある |

基準 1.教育理念・教育目標

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	3
1-2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	4
1-3	教育理念並びに教育目標は定期的に見直しがなされているか。	4
1-4	教育理念並びに教育目標は教職員や学生に浸透しているか。	3
【成果と課題】		
・理念・目標共に、教職員へは職員室内に、学生には校舎の随所（各クラス、ホール）への掲示を継続している。浸透しているかについては未調査のため、評価を現状のままとし、次年度からは定期的にアンケート等調査を行い更なる改善に努めていく。		

基準 2.教育活動・教育成果

2-1	カリキュラムは教育目標が反映されているか。	3
2-2	定期的カリキュラムの見直しがなされているか。	4
2-3	シラバスが作成され学生に配布されているか。	3
2-4	授業の点検評価が適切に実施されているか。	3
2-5	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか。	4
2-6	美容師免許取得率の向上が図られているか。	3
【成果と課題】		
・高等課程の特に漢字における識字力の低い生徒について、その結果がどうであったかが未調査のため、次年度からは定期的に調査し改善に努めていく。		
・その他の項目については、取り組みを継続している。		

基準 3.学生の募集と受け入れ

3-1	学生募集のための広報資料の表現内容並びに広報活動の方法及び時期は適切か。	3
3-2	入学案内には志願者が必要とする情報は掲載されているか。	3
3-3	募集要項の内容は適切か。	4
3-4	学校説明会、体験入学の時期及び内容は適切か。	4
3-5	志願者状況、定員充足率はどうか。	2
<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により学校回りや活動について自粛の必要が度々あり、ネット広告を除き地場を中心とした募集活動が十分に行えなかったため、引き続き厳しい状況であると言える。特に定員充足率については、海外からの留学生が特定の地域を除いてほぼ入国できず、入学者として獲得できなかったことが大きい。 		

基準 4.教職員組織

4-1	専任教員は設置基準を満たしているか。	4
4-2	専任教員一人当たりの担当科目、時間数は適切か。	4
4-3	教職員の業務分掌は明確になっているか。	4
4-4	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか。	4
4-5	職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか。	3
<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状維持に努めている。不備な点があれば拾いだし、今後も改善に努めていく。 		

基準 5.教育環境

5-1	講義室は学習を行うのに十分な面積を有しているか。	4
5-2	実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか。	3
5-3	講義室、実習室の管理は適切に行われているか。	4
5-4	図書は適切に設備されているか。	2
5-5	教育用機器備品は設備されているか。	4
<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学の際、体験者より「美容学校なのに料理の本がある。美容の本置いたらいいのに。」との指摘があり、今後は美容系をもっと補充して整備していくよう努めていく。 ・マツエクやエステの授業に必要なベッド、着付けの授業に必要なボディ（トルソー）を追加で設備し、機器備品の拡充に努めた。 		

基準 6.学生支援

6-1	奨学金等、経済的支援は設備されているか。	4
6-2	学生相談、カウンセリングに関する体制が設備・機能しているか。	4
6-3	各学校行事について、適切な事後反省を行っているか。	3
6-4	進路活動に関する支援が設備され、機能しているか。	4
6-5	新たな求人開拓の努力はしているか。	4
【成果と課題】 ・学生相談・カウンセリングに関して、各クラスの専用 LINE アカウントを設置し、担任と生徒とが相談しやすいよう設備した。学生相談以外でも、重要な通知等連絡手段としても有効なので、今後も継続して取組みを行っていく。		

基準 7.管理・運営

7-1	理事会評議員会は適時適切に開催され、機能しているか。	3
7-2	理事会、評議員会の議事録は適切に作成、管理されているか。	3
7-3	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか。	3
7-4	非常時の危機管理に対する周知は徹底されているか。	3
7-5	個人情報保護法を遵守しているか。	4
7-6	学校の財務情報を公開する適切な体制が設備されているか。	4
【成果と課題】 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、予定していた避難訓練計画を実施することができなかったが、制限が緩和されていくとのことで次年度からは再開する方向で努めたい。		

今後の課題

今回、学校自己評価報告書を作成し、いろいろと改善しなければならないことが見えてきました。そのなかでも、長引くコロナ禍により定員充足率が未だ低下したままという点です。美容業界へ関心を持つ層は影響を受けることなく依然として高い水準であるものの、学校自体の知名度が低く交通の便が悪いこともあって、地場においても認知されていないケースが多く、特に海外からの留学生においては特定の地域を除いてほとんど入国できていない等の問題もあり、当校としても非常に厳しい結果となりました。また、経済的な事由により進学を諦めたり、退学したりするケースが増えてきているのが現状です。それを改善させるには、学校自体の認知を向上させる目的と並行しながら、学生のフォローや支援制度の適切な案内、地場を中心とした高校や中学校の進学ガイダンスに積極的に参加し、先生方及び保護者の方向けの講習会・説明会を定期的実施していくと同時に、美容を志す多くの経済的事由を抱える学生や保護者へ必要な情報が届くよう、学校の認知度向上を図ることを最重要課題と捉え、引き続き全力で取り組んでまいりたいと思います。

次に、学校教育の目標です。改善すべき項目を見直し、手段・手法を精査し今後も改善を図ってまいります。近年、教育において生徒の学ぶ意欲や学力・体力の低下、SNSにおける問題行動や誹謗中傷など、社会的にも多くの問題を抱えています。グルノーブル美容専門学校では、教員の授業・生徒に挑む体制を見直し、礼儀作法や整理整頓などの基本的な振る舞いができるよう人間性を高め、一社会人を輩出する学校の責務と捉え全力で取り組みつつ、地域の方々並びに保護者の皆様や学校関係者の方々と交流することで生徒達も成長し、地域の美容文化向上に貢献できればという思いで、今後の課題として取り組んでまいりたいと思います。

グルノーブル美容専門学校は、これからも、『あらゆる経済的事由を抱えていようとも、その可能性を閉じてはならない。』という建学の精神の元、美容を志す多くの学生へ広く門戸を開き、優れた人材を排出し社会に貢献してまいり所存です。

学校法人北埼玉学園 グルノーブル美容専門学校
令和4年度 自己点検制度推進部会